



お盆号

とうば 塔婆の由来

「どうして塔婆を建てるのか」

お盆の時期が近づいてまいりました。お檀家さんの皆様も「そろそろお墓の掃除に行こう。」とお考えの方もいらっしゃるかと存じます。

今回は葬儀や法事の時に、お墓に建てる木製の板「塔婆」についてお話しをします。普段、何気なく建てている塔婆にはどのような意味があるのでしょうか。

そもそも塔婆は、亡き人への追善供養のために建立する仏塔で、正式には『卒塔婆』と申します。

卒塔婆は古代インドで塔を意味するサンスクリット語で「ストウーパ」が語源です。

八十歳で亡くなられたお釈迦様のお遺骨は、縁ある八つの部族へ分けられ、各々の部族はそのお遺骨を大切に五輪塔（ストウーパ）に納めました。その故事が、インドく中国く日本と伝わる間に、亡き人を偲ぶ建立物として、五輪塔や五重の塔が建てられるようになりました。

つまりは昔の日本人にとっては、卒塔婆とお墓は同じ意味合いを持つていたのです。

しかし、法事の度に、石塔を建てるのは大変な負担であり、墓地の場所も確保しなければなりません。そのために、五輪

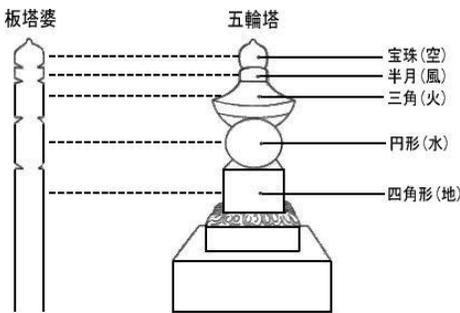
塔を象った板塔婆が江戸時代の頃より一般的になりました。また、五輪塔の形は、この世界を構成する「空・風・火・水・地」の五つの要素（五大または五輪と言う）を表し、それはそのまま、阿弥陀如来の大きいなるいのちの世界で、故人がまるで母親に抱かれて安らぐように、また生きている我々も自然の恩恵を受け、ご本尊さまに見守られていることを意味しています。

つまり、塔婆を建てるということは、私たちもご先祖さまの精霊も、共にご本尊「阿弥陀仏」さまの大きいなる恵みの中で生かされていることを感謝し、信心深い施主から精霊へ「心からの便り」となるものです。『如何お過ごしですか：お陰様で私どもも変わりなく暮らしております。どうかこれからもご加護下さるようお願いいたします。』との想いが込められているものなのです。それゆえ、塔婆を建てることは、仏像を一体つくるのと同じくらいの功德があるとされています。

さて以前、ある檀家さんからこのような話を聞いたことがあります。

『塔婆がいっぱい建ってないと、ご先祖さんへ不調法だと教えられました。』と…

確かに、塔婆は大変ありがたいものでありますが、何が書いてあるかわからない古い塔婆や今にも倒れそうな角塔婆をそのまま放置しているのは、汚れたお墓を掃除していないことと同じことです。



ですので、故人へ想いが届き、役目を果たした塔婆（本来なら葬儀の時の塔婆は四十九日の法要後もしくは墓誌に戒名を刻むまで、法事の塔婆であれば年忌後一年過ぎるまで）は、**お焚き上げ**をして差し上げましょう。

慈光寺では毎年お盆の入りである八月十三日に新墓地脇にて、読経後お焚き上げをしております。古くなった塔婆は遠慮なくお焚き上げ看板の前に置いて行って下さい。丁寧に扱わせて頂きます。

きれいに掃除をしたお墓に、盆幡がたなびき、色鮮やかな生花が供えられ、線香の薫りがする風景は、「極楽からお戻りになられるご先祖さまもさぞかし喜んでいらっしゃるだろう。」と和尚としましても見えていて気持ちがいいものです。

最近、学校の授業で「道徳」が軽んじられているような気がします。算数や国語などの勉強しなければならないし、野球やバスケットボールなど運動もしなければならぬ。子供達も大変ですね。たまの休みだからのんびりさせたい親心もわかりますが、どうか子や孫をひっぱり出して一緒にお墓の掃除をして下さい。

暑いさなか、共に汗を流してお墓を磨いて、きれいに掃除したお墓に向かって一緒に手を合わせ、「ご苦労さん。」と一緒にアイスクリームでも食べる…きっと子供達の心にも、掃除をすることの心地良き、物を大事に使う大切さ、そして「たとえ姿かたちが見えなくても、相手を敬う心」の優しさが芽生えることでしょう。

（副住職 高谷 大悟）



お盆中のおねがい

お墓へのお供え物やゴミは必ず持ち帰りましょう。

お供え物やゴミは必ず持ち帰り各家で処分されるようにお願いします。

特にお供え物を放置すると、カラスが食い散らかしたり、スズメバチが集まってきたりその他の参拝者の方に非常に迷惑がかかります。

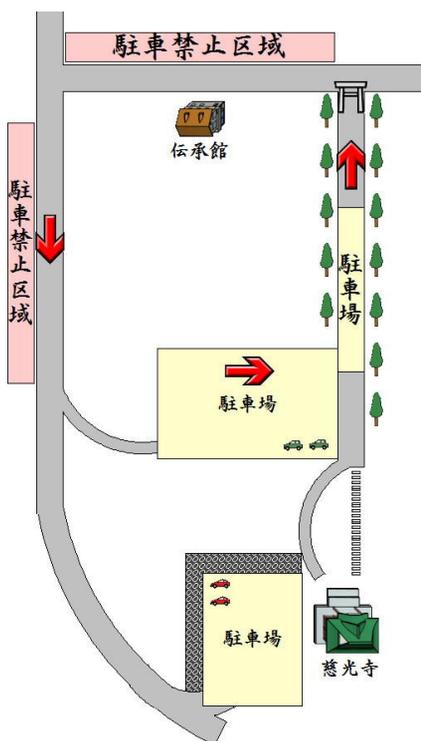
清々しい気持ちでご先祖様が里帰りできるように寺や各地区の墓地の景観を汚すことのないようにしましょう。



お盆期間中の参道の駐車場利用について

檀家皆様のご協力のもと、石垣駐車場も出来ましたので、だいぶ駐車スペースに余裕が出来ました。お盆期間中は非常に駐車場が混雑します。

お盆の間は杉並木の参道を開放いたしますので、駐車場が混雑している時は、参道もご利用下さい。



お焚き上げ

古くなった角塔婆や板塔婆、葬儀に使用した柳旗や下駄などは、お焚き上げ供養によってお墓まわりをきれいにし、ご先祖さまをお迎えしましょう。

慈光寺では毎年左記によりお焚き上げを行っております。

お焚き上げを希望する方は指定の場所に前日までに持ってきておいて下さい。

なお、お焚き上げの場所をゴミ捨て場と勘違いなさっておられる方がいらっしゃるようですが、寺報表紙に書いてあるとおり、非常に神聖な場所です。

くれぐれも枯れた生花、傷んだお供え物、割れた茶碗などを絶対に捨てないで下さい。

日にち 八月十三日
場所 慈光寺新墓地脇 立て札前

寄付紹介

お檀家有志の皆様から、ご寄進を頂きました品などを、ご紹介申し上げます。

● 太鼓・火鉢他 寄贈

久保 定蔵様(山形町戸呂町地区)

亡き奥様への追善供養として、非常に貴重な年代物の太鼓・火鉢などをご寄進頂きました。

● 本堂前 外用賽銭箱他 寄贈

藤森 喜代松様(山口地区)

足の不自由な方が、階段を昇って本堂の中まで入らずともお参りが出来るようにと、本堂正面に外用賽銭箱を設置して

頂きました。なお、施主さん自身が技巧をこらして加工し、住職の一筆「清浄心」としたためております。

● 焼香用机・接客用机他 寄贈

神成 敏夫様(田子内地区)

綺麗に塗られた一枚板の天板の机を、施主さん自身が加工してご寄進頂いた秀逸な品です。なお、香炉も一緒に寄贈して頂きました。

● 参道下水口蓋 施工一式

東 忠一様(生出町地区)

参道途中の下水口の蓋が老朽化して大変危険な状態でしたが、新しい蓋を施工して頂きました。

● 鐘楼堂 撞木 寄贈

田子内 重藏様(森中地区)

加工取付一式

面代工務店様(森中地区)

古くなった鐘突き堂の撞木材として棕櫚木をご寄進頂きました。加工取り付け作業は面代工務店様によりご奉仕して頂きました。

● 境内清掃及び雑草刈り払い奉仕

シルバー人材派遣センター有志様

新町・高砂・森老人クラブ有志様

ここ数年毎年お手伝いをして頂いております。寺族だけでは行き届かない境内清掃にご協力頂きまして篤く感謝申し上げます。

お詫び

紙面のスペースの関係で『寄付紹介』のご寄進頂いた品々の写真を載せることができませんでした。大変申し訳ございません。この場を借りてお詫び申し上げます。